

豊田市長 太田 稔彦 様

前林地域会議 提言書

～ だれもが住みやすく、安心して暮らし続けることのできる地域を目指して ～



前林応援キャラクター まえくん

令和5年6月29日

提言書

1 前林地域の特徴

前林地域は、豊田市南西部に位置し、南北に逢妻女川が流れ、緩やかな丘陵地には田園地が広がっています。明治以降から農業が栄え、高度成長期に自動車関連企業が進出し、工場地が形成されました。現在は、豊かな緑を残しつつ、自動車関連企業の工場をはじめ、様々な物流企業も立地し、交通網の整備が進められています。

地域内の11の自治区では、自治区ごとに歴史や文化を継承する伝統行事やわくわく事業を活用した活動が非常に活発に取り組まれています。また、自治区の多くは、各々に神社を持ち、農村集落として地域内に個人店もありつつ日常生活に関しては地域内完結ができていました。

一方で、高齢化の進展等に伴い、買い物や移動といった生活支援が必要な住民の増加や、後継者不足による耕作放棄地の増加、物流企業の増加に伴う交通安全への課題など、地域課題も変化しています。また、交通手段の拡大に合わせ生活圏・商業圏が拡大したことにより、地域完結型社会の崩壊をもたらし、移動手段を持つものには便利な社会になり、移動手段を持たない高齢者や若年層には不便な社会という2極化の社会が進んでいます。前林地域はその典型的な地域です。

加えて、逢妻女川の両岸は、大雨による浸水被害が想定されているとともに、南海トラフ地震発生時には地域内の約9割が震度6強の想定となっており、防災対策への意識が高い地域でもあります。

2 目指す姿

◆ 「すみよい」 「あんしん」 「まえばやし」

だれもが住みやすく、安心して暮らし続けることのできる地域を目指します。

3 提言

提言① 商業機能の強化及び商業を起点とした地域の活性化促進

▶ 背景

- ・地域内にスーパー等の商業施設がなく、みよし市や刈谷市、知立市等市外の商業施設を頼りにしている状況である。
- ・車による移動が中心の地域環境であり、高齢化の進展による移動困難者の増加に伴い、買い物に行くことのできない高齢者の増加が懸念される。
- ・工業の発展により単身世帯や転入者は増加しているが、一方で地域行事への参加者や地域の担い手の減少が進んでいる。「買い物をする」という欠かすことのできない日常行動の延長線上において、「地域がつながる環境づくり」を進めることが必要である。

★目指す姿

地域住民が安心して住み続けられる地域社会を目指し、中学校区単位での地域完結型社会の構築が必要である。そのため、地域の生活基盤となる商業施設の立地と、これを中心とした巡回交通機関の整備や地域への移動販売などの事業展開を実施し、よりよい地域を築き上げる。

《取組内容》

①スーパー等の商業施設の立地の促進

内容	地域の取組	共働の取組	行政への期待
前林地域内に商業施設を立地する	<ul style="list-style-type: none"> ・活用可能な土地の調査や提供 ・地主等との交渉 	<ul style="list-style-type: none"> ・住民や地元企業への意識調査 ・市や企業等を交えた「(仮)まちづくり検討委員会」の設置運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業へのアプローチ ・規制緩和等の検討

②移動販売車やキッチンカーの出店促進及び「(仮称)地域交流マルシェ」の開催

内容	地域の取組	共働の取組	行政への期待
《取組①》 移動販売車やキッチンカーを地域内に充実させる	<ul style="list-style-type: none"> ・出店可能な土地の調査や提供 ・自治区回覧等を活用した地域への周知 	<ul style="list-style-type: none"> ・検討会議の設置、運営 ・交流イベントの企画、運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・出店企業の調査及びアプローチ ・出店企業への支援策の検討
《取組②》 出店に合わせて、地域交流マルシェを開催し、地域の交流の場を創出する	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント運営スタッフの確保 ・高齢者等への簡易な移動支援(声掛け、一緒に歩く等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・会場の調整、確保 ・出店企業のPR支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や企業の周知活動の支援

提言② 交通安全対策の強化・促進

＞背景

- ・物流企業の進出に伴い、大型車両を中心とした自動車の往来が増え、特に通学路や生活道路における事故のリスクが急増している。
- ・自転車の飛び出しや狭い道路での自転車と自動車のすれ違いが各所で見られ、重大事故につながる可能性があり、交通ルールとマナーを改めて周知していく必要がある。
- ・物流施設の急増に伴う基幹道路等の整備が追い付いていない。あわせて、進出企業への指導や啓発の状況が不透明である。

★目指す姿

地域住民が安心して住み続けられる地域社会を目指し、基幹道路を中心とした道路整備並びに歩道の整備、交通安全施設の整備促進が必要である。また、特に通勤時間帯、退勤時間帯においては企業車両の往来が多く、企業への交通安全指導・啓発も急務である。地域・企業・行政の連携によるハード対策（道路整備等）及びソフト対策（啓発活動等）を一層強化し、安心安全な地域づくりを進める。

➤取組内容

①地域・企業・市との共働による立哨活動の強化

内容	地域の取組	共働の取組	行政への期待
交通安全立哨活動の強化	・立哨活動の参加者の確保	・地域、企業、市との交通安全に関する検討会の設置	・啓発用グッズの拡充及び地域への提供

②住民向け「交通安全学習会」の開催

内容	地域の取組	共働の取組	行政への期待
地域住民に対し、交通安全に関する勉強会を開催する	・勉強会の周知、参加者の確保 ・危険箇所（事故リスクが高い場所）の調査	・学校や企業等も交えて、勉強会の内容等を検討する（授業の活用や社内向け勉強会の開催など） ・会場の確保、調整	・講師や学習資料の手配、提供 ・交通安全危険箇所マップの作成・提供

③交通安全施設等の整備促進

内容	地域の取組	共働の取組	行政への期待
交通安全上、改善が必要な箇所の早期発見と優先順位を付けた工事申請依頼等	・道路環境のチェック強化及び優先順位を付けた早期の工事申請 ・地域住民への危険意識の注意喚起	地域住民に対する注意喚起及び情報発信	・着実な交通安全施設の整備、修繕 ・交通安全施設の設置工事関連情報の提供 ・所管課と支所間における柔軟な事務処理

提言③ 防災対策の推進

➤背景

- ・逢妻女川の両岸は、大雨による浸水被害が想定されており、実際に東海豪雨の際には前林地域内の広範囲で浸水被害が発生している。
- ・南海トラフ地震発生時には地域内の約9割が震度6強の想定となっている。
- ・水害、地震災害ともに被害想定が大きな地域であり、防災への意識が高い。
- ・企業の進出に伴い、マンパワーや避難スペース、物資等様々な面で企業と連携できる可能性が膨らんだ。またBCPの観点からも地域の協力を必要としている企業もある。企業と連携した防災対策を進める必要がある。

★目指す姿

地域住民が安心して住み続けられる地域社会を目指し、広域な土地を有する物流企業が多く進出している前林地域の特徴を生かし、地域企業との連携を主とした防災対策の推進が必要である。合わせて、地域課題解決事業で取り組んできた防災啓発活動や、防災ハンドブック・防災マップを活用した地域住民の防災意識向上を継続して取り組むことにより、災害に強い地域づくりを進める。

➤取組内容

①防災啓発活動の推進

内容	地域の取組	共働の取組	行政への期待
防災イベントやチラシ等を活用した啓発活動の実施	・自治区回覧等を活用した周知	・啓発イベントの企画、運営 ・地元企業と連携した啓発活動の実施	・啓発イベント出展者の調整や設営等支援 ・回覧チラシ等の準備、支援

②防災を起点とした地域の絆を深める取り組み

内容	地域の取組	共働の取組	行政への期待
≪取組①≫ 地域の防災訓練を活用した地域交流と訓練内容の充実	・講座参加者の確保、周知 ・防災訓練の企画、運営	・自治区合同防災訓練等の企画、運営	・派遣型養成講座の開催検討 ・訓練における資機材等の提供、支援 ・市内外を含めた訓練事例の紹介
≪取組②≫ 地域版自主防災リーダー養成講座			

③地域企業との連携による防災対策の推進

内容	地域の取組	共働の取組	行政への期待
自治区と企業との地域協定の推進	・地域として企業に協力できることや企業に協力してほしいことを整理	・企業との調整、交渉 ・企業との合同訓練等の実施	・企業協定の事例収集及び情報提供 ・合同訓練等の企画支援

4 さいごに

これからも、地域会議や区長会、コミュニティ会議等を核としながら、地域住民や企業、行政等との共働による地域づくりを進めてまいります。この提言をもとに、前林地域が「誰もが住みやすく」「安心して暮らし続けることができる」地域になることを願っています。